

こんにちは。  
町長です。



## 役場庁舎の基本設計・実施設計が進んでいます。

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、町民の皆様には感染防止に普段から留意いただきまして誠にありがとうございます。このような状況で町の諸事業・行事も中止となり町民の皆様への生活にも多大な影響を与えておりますことにお詫び申し上げます。

さて、そのような中ではありますが、昨年度からの継続事業で役場庁舎基本設計・実施設計が進められています。設計業務は香山壽夫建築研究所に委託しています。新庁舎の建設場所は現在の小鹿野庁舎の位置で、構造は木造とする設計です。

木材は町有林を使用する予定です。また、環境性能にも配慮して高气密高断熱でライフサイクルコスト(建設、維持管理、解体までの全期間に要する費用)に配慮した設計としたいと存じます。

現在、国(環境省)と協議を進め、高断熱、日射遮蔽、自然換気などのエネルギーを極力必要としない技術や高効率な空調、照明などのエネルギーを無駄なく使う技術を融合させるとともに、太陽光発電などの再生可能エネルギーを活用して年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロに近づけることを目指した庁舎とします。このことにより国のZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)関連補助事業の導入が可能となる予定です。

新庁舎の建設財源としては合併特例債を活用したいと存じます。合併特例債は、対象事業費の95%に充てられ、その元利償還金の70%を国が地方交付税で負担してくれる町にとっては大変有利な財源です。

新庁舎の建設全体スケジュールは、本年度中に設計業務を終了し、令和3年度から令和4年度にかけて現小鹿野庁舎の解体と建設工事を進めたいと存じます。

小鹿野庁舎解体に伴い役場機能は、両神庁舎に移設いたします。なお、この間、住民票発行等の一部事務機能は、小鹿野中央病院に併設されている保健福祉センター内にも確保する予定です。新庁舎が完成するまで町民の皆様にご不便をおかけしますがご容赦願いたいと存じます。

さて、先般、町民の方26名にご参加いただき基本設計町民ワークショップを実施いたしました。参加していただいた皆様から様々なご意見ご提言をいただきました。その中でこれから社会経済の変革が早いスピードで進み、高度情報化や人口減少の中で、建物の用途変更が可能となるようなフレキシブル(柔軟性があり、しなやかなさま)な設計を希望する提案がございました。役場庁舎は長く使用する建物であり、時代の変化に対応できることは大切な要素であると思います。また、自然災害等が多発する不確実な時代の中で、町民の安心安全を守るための機能の充実も強く求められるものと存じます。そして、そこで働く役場職員が町民から信頼される仕事をするのが一番肝要であると思います。



小鹿野町長 森 真太郎